

正誤表

「やさしい運動生理学 改訂第2版 第1～2刷」

下記の箇所にも誤りがございました。謹んでお詫びし訂正いたします。

頁	該当箇所	誤	正
12	上から2～6行目	インスリンは膵臓から分泌され、血液中のグルコース（血糖）の量を低下させる作用のあることがよく知られている。脂肪の代謝にも重要である。したがって食物からの脂肪の摂取が過剰になると、体内の脂肪の代謝がさかんになり多量のインスリンが脂肪代謝に利用されるため、血糖を低下させるインスリンの量が不足する。この結果、血液中の血糖の濃度が増大し、糖尿病を起こす原因となる。	インスリンは血液中のグルコース（血糖）の量を低下させるはたらきがある。しかし体内に脂肪が蓄積されると、この脂肪組織からアディポサイトカインという一群の物質がつくられる。アディポサイトカインのあるものはインスリンのはたらきを阻害するので血糖値が上昇し、糖尿病を起こす。
131	上から15行目	インスリン投与により <u>グルコース新生</u> が抑えられているため、	インスリン投与により <u>血液中のグルコース濃度上昇</u> が抑えられているため、
131	下から9行目	インスリンが <u>不足する</u> ために起こる。	インスリンの <u>作用が減弱する</u> ために起こる。

(2022年9月1日 株式会社 南江堂)